

2022年度 講義要綱

科目	コミュニケーションⅡ	必修 2単位 講義	講師	中村 直美
授業概要	クラスを一つの集団とみなし、集団として成長していく過程を体験学習する。 保育者に必要とされるコミュニケーション力を養う。 認定絵本士養成講座科目を学び絵本への理解を深める。(該当科目4コマ)			
授業目標	・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養えるようになる。コミュニケーション能力を身に付ける。 ・絵本のもつ可能性及び相反する力について理解する。絵本が子ども達に与える影響について多角的な視野から見つめることにより、批評力を体得する。(認定:「絵本のもつ力」なかむらしんいちろう)			
到達目標	・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養いコミュニケーション能力を身に付けることができる。 ・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。			
授業方法	コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。			
授業計画	1 オリエンテーション 2 コミュニケーションワーク(1) 3 就職活動とコミュニケーション(1) 4 コミュニケーションワーク(2) 5 【認定絵本士養成講座科目】「心に寄り添う絵本」担当:細江幸世 6 コミュニケーションワーク(3) 7 就職活動とコミュニケーション(2) 8 【認定絵本士養成講座科目】「絵本のもつ力」担当:なかむらしんいちろう 9 就職活動とコミュニケーション(3) 10 就職活動とコミュニケーション(4) 11 コミュニケーションワーク(4) 12 就職活動とコミュニケーション(5) 13 就職活動とコミュニケーション(6) 14 コミュニケーションワーク(5) 15 振り返り・夏季休暇・後期の学校生活に向けて 17 コミュニケーションワーク(1) 18 【認定絵本士養成講座科目】「ホスピタリティに学ぶ」担当:近藤学 19 就職活動とコミュニケーション(1)就職フェア振り返り 20 就職活動とコミュニケーション(2)就職フェア振り返り 22 コミュニケーションワーク(3) 23 コミュニケーションワーク(4) 24 就職活動とコミュニケーション(3) 25 就職活動とコミュニケーション(4) 26 コミュニケーションワーク(5) 27 就職活動とコミュニケーション(5) 28 就職活動とコミュニケーション(6) 29 【認定絵本士養成講座科目】「ディスカッション」担当:鈴木八重子 30 振り返り・卒業に向けて			
必須テキスト	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト			
参考文献				
成績評価の方法と基準	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト			
担当教員の専門分野等	中村直美:実務経験のある教員 【認定絵本士養成講座担当講師】 ○なかむらしんいちろう:絵本作家、絵本の研究者、絵本をめぐる活動全般に精通した者 ○細江幸世:絵本作家、絵本の研究者、相談機関等において絵本の読み聞かせの実験経験のある者 ○近藤学:子ども達を対象とした商業施設の従事者			

2022年度 講義要綱

科 目	保育と外国語	必修 2単位 講義	講 師	金藤 明美
授業概要	コミュニケーションを意識しながら、初対面英会話、保育現場で使われる基本的な英語表現、Show and Tell、そして英語絵本の読み聞かせなどを通して、机上だけでは学びにくい生きた英語を学ぶ。さらに子供や英語に関する有意義な情報をシェアする。			
授業目標	様々な英語表現習得のためのアプローチを通して、英語の学びの楽しさに気付き、さらにコミュニケーション力の向上を図る。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子供にかける誉め言葉や励ます言葉、そして場面別に語りかける基本的な英語表現は、とっさに使えるレベルを目指す。 ・初対面の為の英会話スキットの暗記と発表、そしてShow and Tellを体験する。 			
授業方法	英語の歌、チャンツ、そして様々なアクティビティを通して楽しく英語表現の練習・自動化を行う。また全体練習、グループ練習、そしてペアワークへと無理のない流れで練習する。これらの基本的な練習を経て、自己紹介、初対面スキット、そしてShow and Tellを発表する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 講義要綱/ コミュニケーションKeys/ 英語で挨拶/ 自己紹介表現 2 バーバル・ノンバーバルコミュニケーション/ 自己紹介表現/ 幼児の為の英語表現① 3 幼児英語検定/ 自己紹介表現(ミニブック作成)/ 幼児の為の英語表現①/ 絵本紹介 4 ある保育士の紹介/ 自己紹介表現発表/ 幼児の為の英語表現①②/ 絵本紹介 5 Halloweenの本当の話/ 初対面英会話/ 幼児の為の英語表現②/ 絵本紹介 6 フォニックス/ 初対面英会話/ 幼児の為の英語表現②/ 絵本紹介 7 フォニックス/ 初対面英会話/ 幼児の為の英語表現③/ 絵本紹介 8 Multiple Intelligence/ Show and Tell ①/ 幼児の為の英語表現③/ 絵本紹介 9 保育関係の英語表現/ 美しい幼稚園紹介/ Show and Tell①グループシェア/ 幼児の為の英語表現④ 10 初対面英会話のKey(YouTube)/ 口頭試験対策練習 11 口頭試験実施/ 絵本紹介 12 世界幸福度ランキング/ 幼児の為の英語表現④/ Show and Tell②/ 絵本読みポイント 13 笑顔がもたらす効果/ 絵本読み大会 14 中国語 15 韓国語 			
必須テキスト	ENGLISH FOR USE in NURSERY SCHOOLS 2022			
参考文献				
成績評価の方法と基準	出席(20%) + 自己紹介発表・提出物(30%) + 口頭試験(50%) = 100点 ※授業参加への積極性も加点対象となる			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。長年に渡り英語教室運営。北区外国語教育アドバイザー。アルクこども英語・小学校英語関係出版物執筆協力。アルク小学校英語DVD撮影協力。読売KODOMO新聞「やってみよう!」共同監修。			

2022年度 講義要綱

科 目	体育実技	必修 1単位 講義	講 師	真砂 雄一
授業概要	保育者として、自身の体力の維持増進を図ると同時に、様々な運動の特性を知り、運動技能の向上を図る。子ども達が楽しいと思える運動遊びとは何かを考え、展開するための理論や技術を学ぶ。			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な運動を通して、子ども達に運動の楽しさを教えることのできる素地を養う。 ・基礎的な運動やスポーツ種目を体験することで、身体づくりのための体力を養う。 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達に運動の楽しさを教えることのできる素地を習得し、身体づくりのための体力を養うことができる。 ・環境の構成、保育士の配慮事項を含む、運動遊びの計画を組み立てることができる。 			
授業方法	<p>「からだ」を動かすことの楽しさを知り、生涯にわたって自ら健康や体力に配慮し、それらを保持増進していくために、各種スポーツやレクリエーションスポーツを実践し、運動遊びの計画立案等、様々な形の学習を体験する。 ＊社会情勢や進行状況に合わせ内容や順番を適宜変更する。</p>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス・体育／スポーツとは(オンライン) 2 球技① 3 トレーニング(オンライン) 4 運動会種目 5 球技② 6 器械運動 7 体力テスト(オンライン) 8 運動遊び実践の計画立案 9 有酸素運動(オンライン) 10 運動遊び実践① 11 運動遊び実践② 12 運動遊び実践③ 13 運動遊び実践④ 14 リズムテスト・レクリエーションゲーム 15 振り返り、まとめ(オンライン) 			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	授業中に紹介する			
成績評価の方法と基準	授業に対する関心・意欲・態度(30%)＋実技参加の意欲・積極性・協調性(40%)＋リズム試験(30%)＝合計(100%)			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。現在短大にて、幼児体育や健康を担当する准教授として勤務。小学校で体育テクニカルアドバイザーの経験あり。保育園にて運動指導アドバイザー。専門分野：幼児体育、身体表現、レクリエーション			

2022年度 講義要綱

科 目	情報機器の操作	必修 1単位 講義	講 師	南部 英子
授業概要	実務でよく使われるオフィスソフトの基本操作、および情報モラル・情報セキュリティの基本について学習する。保育の現場を意識し、学び合い、協同作業、振り返り等、Zoomを使ったグループワークを通して情報機器の活用を体験する。			
授業目標	保育現場で必要とされる基礎的な情報機器の活用法を習得する。 情報を正しく安全に取り扱う姿勢を身に着ける。			
到達目標	ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトの基本操作を習得し、協働作業で活用する。 情報モラル・情報セキュリティを正しく理解し、自身を守る実践的な知恵を身に付ける。			
授業方法	PC操作実習。情報モラル・セキュリティの基礎知識クイズ。Zoom併用グループワーク・作品発表。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(授業計画・PC基本操作・文字入力確認・Teams確認・通信環境アンケート) 2 文書作成1(Word:お知らせ文) 3 文書作成2(Word:イラストや表の入った文書) 4 文書作成3(Word:小テスト、知識整理)・ファイル管理 5 インターネット・メール 6 情報モラル・情報セキュリティ 7 表計算1(Excel:表作成・計算式) 8 表計算2(Excel:関数・グラフ) 9 表計算3(Excel:データベース、小テスト) 10 教育と情報機器(ビジュアルプログラミング操作体験) 11 プレゼンテーション1(PowerPoint:基本操作・オブジェクト・アニメーション) 12 プレゼンテーション2(PowerPoint:グループ発表計画) 13 プレゼンテーション3(PowerPoint:グループ発表制作) 14 グループ発表・相互評価(PowerPoint・Excel) 15 振り返りレポート作成(Word・Excel・PowerPoint) 			
必須テキスト	特に指定なし。適宜、資料配布。			
参考文献	特に指定なし。			
成績評価の方法と基準	授業後の提出物(作業ファイル・感想・知識クイズ;60%)+Word・Excel小テスト(20%)・PowerPoint発表と振り返りレポート(20%)=合計(100%)			
担当教員の専門分野等	博士(人間科学)。比較行動論。大学非常勤講師(情報基礎科目)。 民間PCスクール、企業新人PC研修、再就職PC研修、教育現場でのICT機器の操作活用支援を経験。			

2022年度 講義要綱

科 目	子ども家庭支援論	必修 2単位 講義	講 師	前川 洋子
授業概要	家庭という視点から支援のあり方について明らかにする。家庭生活を取り巻く様々な社会的状況について把握し、問題の所在やその解決アプローチを学ぶ。社会福祉の視点も含み、家庭に基本的な知識と家庭支援の専門性について学ぶ。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。 			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども家庭支援の基本を理解し、保育士の行う相談等の意義と資源の活用、関係機関との連携を説明することができる。 2. ニーズに応じた多様な支援の展開及び子ども家庭支援の現状と課題が理解できる。 			
授業方法	基本的に講義形式であるが、現代の子どもと家庭を捉えるためにニューズピックを扱い、多様な支援方法の理解を深めるワークを行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 子ども家庭支援の意義と必要性 2 家族システムと家庭 家庭機能の低下 3 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 4 子どもの育ちの喜びの共有 5 保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 6 支援における保育士の基本的態度(受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等)と技術 7 家庭の状況に応じた支援 育児不安 保育士の理解と支援 8 地域の子ども家庭支援における保育士等の役割 9 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 子育て支援サービス 10 国策・自治体の子育て支援策及び子ども家庭支援に関わる法律 11 子ども家庭支援の内容と対象 多様化、複雑化する子育て家庭の生活環境 12 保育所等を利用する子どもの家庭への支援 役割・実際・留意点 13 地域の子育て支援における保育士の役割 14 虐待の予防や防止 障害のある子どもとその家庭への支援 15 子ども家庭支援に関する日本の現状と課題 世界の子育て支援国際比較より 総まとめ 			
必須テキスト	松本園子、永田陽子他『子ども家庭支援論』ななみ書房 2021年			
参考文献	谷田貝公昭 監修 和田上貴昭 他編著 『子ども家庭支援論』—藝社 2020年			
成績評価の方法と基準	授業への取り組み(50%)+レポート課題(50%)=合計(100%) 意欲的、積極的な取り組みを評価し、期待します。			
担当教員の専門分野等	大学通信教育部配本テキスト『子ども家庭支援論』『特別支援教育』他、保育士養成テキスト『保育の心理学演習ブック』『子ども家庭支援論』他執筆 教員免許状更新講習講師、社会福祉法人第三者委員(相談員)、東京都保育士研修等担当			

2022年度 講義要綱

科目	保育者論	必修 2単位 講義	講師	三島 秀晃
授業概要	保育所保育指針に基づき、保育者としての役割、職務内容を理解したうえで自身の目指す保育者像を形成できるようになる。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者の役割と倫理について理解する。 2. 保育士の制度的な位置づけを理解する。 3. 保育士の専門性について考察し、理解する。 4. 保育者の連携・協働について理解する。 5. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。 			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所保育指針に示されている、保育者の役割、職務内容を説明できるようになる。 2. 保育所保育指針に基づき、適切な保育指導計画案をたてられるようになる。 			
授業方法	「保育所保育指針解説」、「幼稚園教育要領解説」を基盤に作成されたパワーポイント資料を使い、実際の保育現場において、様々な状況に応じた保育者として適切な指導、援助、配慮の方法を学び、理解を深める。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 指導計画の必要性 3 わらべうた遊び演習 4 「子どもの姿」を基にわらべうた遊びを想定した、保育指導計画案の「ねらい」と「内容」の記述演習 5 保育指導計画案の「ねらい」と「内容」を踏まえた、「環境の構成」、「予想される子どもの姿」、「保育者の援助、配慮」の記述演習① 6 保育指導計画案の「ねらい」と「内容」を踏まえた、「環境の構成」、「予想される子どもの姿」、「保育者の援助、配慮」の記述演習② 7 エピソード記述演習 8 保育現場における特別支援の実際① 9 保育現場における特別支援の実際② 10 保育における地域との関わり合いの実際 11 教員研修の必要性 12 「主体的・対話的で深い学び」とは 13 保育指導計画案の作成① 14 保育指導計画案の作成② 15 自身の目指す保育者像を視覚化(レポート、イラストなどを活用) 			
必須テキスト	「保育指針解説」厚生労働省			
参考文献	授業内に紹介(授業計画各回ごとのパワーポイント資料を紹介)			
成績評価の方法と基準	授業態度(30%)、授業内制作物(30パーセント)、授業内課題、レポート(40%)			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。公立保育所勤務3年、私立幼稚園勤務15年大学勤務2年。幼児教育における「人間関係」、「特別支援教育」、「特別な支援を必要とする幼児と周囲の子ども、その両者の保護者の関係性」について研究。			

2022年度 講義要綱

科目	子ども家庭支援の心理学	必修 2単位 講義	講師	今泉 岳雄
授業概要	家庭における子どもの発達と家族の役割を知り、保育者の支援の在り方を学ぶ			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。 			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもが健やかに育つために、どのような要因を考えるべきか述べることができる。 2. 現代の家庭がどのような問題を抱え、保護者や子どもがどのようなストレス反応を示すことがあるか、説明することができる。 			
授業方法	関連する映像やデータを使うとともに、受講生の活発なグループワークを通して、子ども発達や子どもの属する家族の機能や役割、支援の在り方について視野を広げていきたい。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児期から学童期にかけての発達特徴 2 思春期から青年期の発達の特徴 3 成人期から高齢期の発達の特徴 4 家族システムと家族発達 5 親としての養育スタイルの形成過程と世代間伝達 6 子育て環境の社会状況的变化 7 ライフコースとワーク・ライフ・バランス 8 多様な子育て家庭への支援 9 特別な配慮を必要とする家庭への支援 10 子どもを取り巻く生活環境と心身の健康 11 子どもの心と健康 12 障害のある子どもの理解と対応 13 災害と子ども 14 保育園・家庭・地域 15 まとめ 			
必須テキスト	『シードブック 子ども家庭支援の心理学』 本郷一夫・神谷哲司編著 建帛社			
参考文献	授業中に適宜紹介、配布			
成績評価の方法と基準	出席点(20%) + 課題提出(80%) = 合計(100%)			
担当教員の専門分野等	『実務経験のある教員の授業』臨床心理学専門。臨床心理士、公認心理師。神奈川県立の児童相談所、児童自立支援施設、日赤医療センター、東北文教大学(教授)などに勤務。『心理学のエッセンス』(日本評論社)、『ハッピー育児セラピー』(学習研究社)、『パパにもわかる子育ての本』(実業之日本社)、他出版。			

2022年度 講義要綱

科 目	保育内容演習・健康	必修 1単位 講義	講 師	松森 照幸
授業概要	5領域の中での健康の意味と、他の領域との関連しあいながら、子どもの成長につながっていることを理解する。子どもの発達過程、自立に必要な基本的生活習慣を学ぶ			
授業目標	1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心身の発達について、知識を得、健康に関する理解を深めることができる。 ・自分が常に保育の現場に立った時を想定し、健康とは何かを理解し実践力を身に付けることができる。 			
授業方法	保育所保育指針の健康のねらいと内容を理解し、どのようなことが大事かを考え学び、基本を身につける。			
授業計画	1 ガイダンス※授業の内容は進み具合によって変更する場合があります。／子どもの健康について 2 領域「健康」のねらいとは、 3 領域「健康」の内容とは① 4 領域「健康」の内容とは② 5 領域「健康」の内容とは③／子どもの安全、健康に対する管理と教育 6 領域「健康」の内容とは④ 7 子どもの遊びとは 8 水遊び、砂遊び、遊びの中で育む生活習慣／他の領域との関係 9 子どもの心身の発達について① 10 子どもの心身の発達について② 11 子どもの安全、健康に対する管理と教育 12 基本的生活習慣① 13 基本的生活習慣② 14 基本的生活習慣③ 15 基本的生活習慣④			
必須テキスト	保育所保育指針			
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布します。			
成績評価の方法と基準	受講態度(40%)、提出物(30%)、(ミニテスト30%) 出席状況(一回欠席に対し5点マイナス)による総合評価			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。長年保育現場に勤務し、保育現場に携わる。 現在は幼稚園、保育園で幼児体育講師として勤務 ・ハッピー運動会楽しさいっぱい種目集、案、監修			

2022年度 講義要綱

科目	保育内容演習・人間関係	必修 1単位 講義	講師	中山 利彦
授業概要	1. 保育においてなぜ「人間関係」について学ばなければならないのかを理解する。 2. 大人と子どもの関わりから子ども同士の関わりへ向かう保育について学ぶ。 3. 5領域「人間関係」の「ねらい」「内容」「内容の取り扱い」について学ぶ。			
授業目標	1. 「現在を最もよく生き、望ましい未来をつくり出す」ための「人間関係」とは何かを理解する。 2. 子どもたちにおける「人間関係」の適切な構築のしかたを知る。			
到達目標	1. 保育所保育指針の「人間関係」の内容に沿って5領域「人間関係」とは何かを理解する。 2. 子ども同士の関わりを促す保育の方法について発達別に理解を深める。			
授業方法	1. テキストを用いながら、座学形式で保育における「人間関係」について抗議する。 2. 講師が勤める保育現場での「人間関係」の実際を園で撮った写真や動画にて紹介する。			
授業計画	1 オリエンテーション～これから学ぶ「人間関係」の土台となる保育の目標、保育の方法、保育の環境について振り返る。 2 保育所保育指針の「3本柱」「5領域」「10の姿」及び児童福祉法、子どもの権利条について。 3 養護の理念。生命の保持と情緒の安定。乳児保育における「人間関係」を理解する前提。 4 乳児保育における「人間関係」のとらえ方その1 コミュニケーションの積み重ねで情緒的な絆が形成される。 5 乳児保育における「人間関係」のとらえ方その2 様々な人達との関わり(人間関係)を持ちたいと思えるような援助 6 1歳以上3歳未満児の保育における「人間関係」のとらえ方その1 自立心を育て、人と関わる力を養う。 7 1歳以上3歳未満児の保育における「人間関係」のとらえ方その2 保育士等の仲立ちにより、他児と関わる。 8 1歳以上3歳未満児の保育における「人間関係」のとらえ方その3 温かく見守るとともに、応答的に関わる保育。 9 3歳以上児の保育における「人間関係」のとらえ方その1 集団的な遊びや協同的な活動 10 3歳以上児の保育における「人間関係」のとらえ方その2 他の人々と親しみ、支え合って生活する。 11 3歳以上児の保育における「人間関係」のとらえ方その3 友達と積極的に関わりながら共感し合う。 12 3歳以上児の保育における「人間関係」のとらえ方その4 ルールを守ると友達との遊びが楽しくなる 13 大事なことは「子どもと子ども」の関係その1 「けんか」、「お手伝い保育」他 14 大事なことは「子どもと子ども」の関係その2 「ごっこ遊び」にみる「人間関係」のつくり方 15 まとめ 見守られながら、子どもたちが他者と関わる力を身に着ける保育のしかたとは。			
必須テキスト	平成29年告示保育所保育指針・保育所保育指針解説書 藤森平司著『見守る保育』(学研)			
参考文献	藤森平司著『21世紀型保育のススメ 1～5』			
成績評価の方法と基準	出席・受講態度(50%)＋受講後レポート(50%)＝合計(100%) 小テストや定期試験の代わりに受講後、「授業で学んだこと」「質問や感想他」をメールやteamsでレポート提出し評価の対象とする。対面授業においては、受講態度を重視する。オンライン授業において、指名の際応答がない場合は欠席とみなす。			
担当教員の専門分野等	20年以上、認可保育園、認定こども園(保育所型)にて園長・副園長として子どもの権利条約、児童福祉法、保育所保育指針に沿った保育現場で携わっている。現在、新宿せいが子ども園副園長、東京都福祉サービス第三者評価者、東京都保健福祉財団保育理論講師、全国私立保育連盟国際委員会委員長。			

2022年度 講義要綱

科目	保育内容演習・環境	必修 1単位 講義	講師	佐藤 圭子
授業概要	保育の仕事とは・・・保育士を目指す意欲や喜び、好奇心につながる授業 学ぶことの楽しさ・・・クラス及び仲間との体験学習を通して、コミュニケーション力を に付ける			
授業目標	1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について			
到達目標				
授業方法	机上の学習だけでなく、実技や実践を通して、保育環境をわかりやすく学ぶ グループ課題、ワークショップ形式などの学習方法			
授業計画	1 15回の授業の内容、進め方 今を生きる皆さんにとっての「環境」とは、 2 園生活で一番大事な「食」 食べることは「生命」 身体の動き・手の動きなど発達の基礎から食事を捉える 3 食を通しての保育環境 食事を(運動発達・腔内・舌の動き)など具体的に実践して学ぶ 4 乳幼児期の子どもの成長から考える「絵本の環境」とは 絵本に触れることが少なくなっているのは、環境から捉える 5 遊びを考える「おもちゃ」の環境を理論と実践で学ぶ 6 おもちゃで遊んでみよう 色々なおもちゃに手にしておもちゃの持つ面白さを感じてみよう 7 子どもたちが手にして使ってみる素材 大人が保育環境の中で提供する素材とは 8 0.1.2歳児の保育室の環境構成の理論を学ぶ 9 3.4.5歳児の保育室の環境構成の理論を学ぶ 10 デンマーク・ハンガリー・スウェーデン・フィンランドの保育園・幼稚園を紹介 11 5人ぐらいのグループを作り、何歳児の保育室をデザインするかグループミーティング 12 前回に引き続き夫々のグループごとに保育室デザインを進めていく 13 前回に引き続き夫々のグループごとに保育室デザインを進めていく 保育室のデザイン(間取り、年齢に応じたおもちゃなど、保育環境を設計図に落とせる 14 グループごとに保育室デザインのプレゼンテーションを行う 15 ロングタームの発表・発表内容を記録・提出 グループの取り組みなどの感想を記録・・・提出			
必須テキスト	授業中に適宜に資料及びプリントを配布します。			
参考文献				
成績評価の方法と基準	・出席日数・授業態度及び意欲性、主体的に意見を述べる態度・・・30パーセント ・グループ活動時の積極的な取り組み・・・30パーセント ・各グループの保育室デザインの考察及び感想・・・40パーセント			
担当教員の専門分野等	長年にわたって保育園勤務。 現在園長及び会社運営にも携わっています。			

2022年度 講義要綱

科 目	保育内容演習・言葉	必修 1単位 講義	講 師	大河 英美
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の言葉のねらい、内容を言葉の獲得から理解する。 ・実践を通して、言葉の大切さや伝える難しさを知り、言葉における表現方法を学ぶ。 			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の獲得方法を理解し、保育者のすべき役割について学ぶ。 また、実践的な関わり方を知り表現方法や保育技術を獲得する。 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・発達における言葉の理解、ねらいを知る。 ・コミュニケーションやディスカッションを通して様々な表現方法を獲得する。 			
授業方法	コミュニケーションスキルを身に付けるためにグループワーク、ディスカッションゲーム、課題解決学習など、様々な学習形態を経験していく。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション ～講義のねらい、概要について～ 2 言葉の基礎と知識 3 乳幼児期の言葉の発達について① 4 乳幼児期の言葉の発達について② 5 言葉遊びの意義とは 6 言葉を用いた遊びの内容について 7 保育所保育指針から学ぶ言葉について 8 コミュニケーション能力を知る 9 保護者対応における言葉について 10 書く言葉について 11 コミュニケーション能力を知る 12 聴く力、書く力、話す力について 13 事例からみる言葉について① 14 事例から見る言葉について② 15 まとめ・テスト 			
必須テキスト	【保育内容 ことば】みらい			
参考文献	『保育所保育指針解説』平成30年3月、厚生労働省			
成績評価の方法と基準	出席率、授業態度(積極性、コミュニケーション力など)提出課題、テストなどの総合評価			
担当教員の専門分野等	実務経験ありの教員による授業。幼稚園教諭、障害児保育、認可、認証保育園など様々な現場で勤務し、2020年まで株式会社の保育園で園長として勤務。現在、株式会社の本社で保育運営のエキスパートとして保育園監査、園長指導、運営指導に携わる。			

2022年度 講義要綱

科目	保育内容演習・表現	必修 1単位 講義	講師	二木 秀幸
授業概要	子どもの発達を考えながら、保育に関わる表現活動全般を取り上げる。あそびを通して「表現することの楽しさ・喜び」を自ら感じ体験する。そしてそれらを子どもに伝えられる保育者になるための理論と実践を演習する。			
授業目標	1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の研究を軸に、子どもの表現の育ちと保育者の役割について理解できる。 ・子どもの表現活動に対する指導方法を習得する。 			
授業方法	課題に対し、個人で、或いはグループで、作品づくり・発表・振り返りを繰り返す演習形式で進行します。また毎回、様々な歌を歌います。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 授業内容とポイントの解説／“あそび”“表現”を考える 2 子どものうた(1) いろいろな歌をうたう・手あそび・歌あそび 3 子どものうた(2) 保育における歌を考える・子どもに歌を教えるには／まとめ 4 様々な素材を使った表現(1) 詩を素材としてあそぶ(グループワーク) 5 様々な素材を使った表現(2) 詩を題材とした作品づくりの実践(グループワーク) 6 様々な素材を使った表現(3) 詩を題材とした創作作品の発表／まとめ 7 様々な素材を使った表現(4) 動画の鑑賞を通して 8 様々な素材を使った表現(5) 絵本を素材としてあそぶ(グループワーク) 9 保育における“ごっこあそび・劇あそび・劇”を考える 10 様々な素材を使った表現(6) ボディー及びヴォイスパーカッション・体を使った表現 11 総合的な表現(1) ミュージカル作品を素材とした作品の創作／素材の研究・準備 12 総合的な表現(2) ミュージカル作品を素材とした作品の創作／ストーリー・演出の研究 13 総合的な表現(3) ミュージカル作品を素材とした作品の創作／リハーサル 14 総合的な表現(4) ミュージカル作品を素材とした作品の創作／発表会 15 振り返りと総まとめ／表現活動の指導方法 			
必須テキスト	『6訂版 歌はともだち』教育芸術社			
参考文献	『ポケットいっぱいのおうた』など音楽等の授業で使用している歌の本			
成績評価の方法と基準	授業への取り組み(50%)＋レポート(30%)＋作品発表(30%)＝合計(100%)総合評価 ※動きやすい服装・靴で履修のこと(必須)			
担当教員の専門分野等	専門分野:音楽(声楽・作曲)表現 研究テーマ:音楽表現・劇あそび・演劇表現。児童劇に役者として15年間携わっていました。表現教育やワークショップ、舞台演出等も行っています。			

2022年度 講義要綱

科 目	障害児保育	必修 2単位 講義	講 師	前川 圭一郎
授業概要	近年、「しょうがい」についての考え方が大きく変化してきている。そのような「しょうがい」の考え方は、「ダイバーシティ」、「SDGs」などにも共通して含まれることであり、基本的人権とも密接に関わっている。本科目では、「しょうがい」とは何かということを軸に、保育現場における支援の在り方について考えていく授業となる。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害児保育を支える理念や歴史的背景について学び、障害児及びその保育について理解する。 2. 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。 3. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。 4. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「しょうがい」とは何かを考え、個々の発達の状況に応じた保育を行うための必要な知識を身につける ・「環境と個の相互作用という観点から、しょうがいを捉え」適切な支援について考えることができる 			
授業方法	対面、または、オンラインによる授業において、講義とグループワークを通して学びを深めていく。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ・本授業のガイダンス ・「しょうがい」についての歴史的編成について 2 ・特権 ・隠れたカリキュラム 3 ・自閉症スペクトラム(ASD)の理解 4 ・自閉症スペクトラム(ASD)の支援 5 ・注意欠如多動症(障害)ADHDの理解と支援 6 ・限局性学習障害の理解と支援 7 ・知的障害の理解と支援 ・ダウン症の理解と支援 8 ・視覚障害の理解と支援 ・聴覚障害の理解と支援 9 ・肢体不自由の理解と支援 ・病弱について 10 ・環境と個の相互作用の視点から支援を考える 11 ・合理的配慮とは何か ・基礎的環境整備とは何か 12 ・応用行動分析学に基づく早期の支援について 13 ・課題分析について ・スモールステップに基づく支援について 14 ・インクルーシブが誤用される時 ・真のインクルーシブに向けて「環境との相互作用」の視点から 15 試験 			
必須テキスト	授業でその都度配布を行う			
参考文献	保育学用語辞典(秋田ら2019).-特別支援教(猿渡,前川ほか)-			
成績評価の方法と基準	授業への取り組み(20%)＋リアクションペーパー・小テスト(30%)＋定期試験(50%)＝合計(100%) 意欲的、積極的な取り組みを評価し、期待します。			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。 保育所へのコンサルテーション・発達障害児の支援方法を研究。 『保育学用語辞典』、『段階別でわかる！発達が気になる子のやる気を引き出す指導法』等を分担執筆。			

2022年度 講義要綱

科目	子育て支援	必修 1単位 講義	講師	今泉 岳雄
授業概要	保育の専門性とは何かを理解し、様々な事例を通して、保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、その特性と展開を具体的に学んでいく。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。 2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。 			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保護者の信頼関係を築くために必要なポイントを述べることができる。 2. 子育て支援を行うにあたってどんな知識が必要かを述べることができる。 			
授業方法	講義以外に、動画の視聴やロールプレイ・事例についての話し合いを通して、子育て支援の知識やスキルの獲得を目指す。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの保育とともに行う保護者との相互理解・信頼関係の形成・支援 2 保護者や家庭のかかえる支援のニーズへの気づきと多面的理解、他者と関わる機会や場の提供 3 保護者が悩む子どもの心理的な問題・発達上の問題の理解と支援 4 保護者の精神疾患と支援 5 支援の計画と環境の構成、支援の実践・記録・評価・カンファレンス 6 カウンセリングの基礎知識とロールプレイ① 7 カウンセリングの基礎知識とロールプレイ② 8 職員間・自治体・関係機関や専門職との連携 9 保育所における支援内容と地域子育て家庭に対する支援 10 障害のある子どもや特別な配慮を要する子どもおよびその家庭に対する支援 11 子どもの虐待の予防と対応① 12 子どもの虐待の予防と対応② 13 要保護児童等の家庭に対する支援 14 多様なニーズをかかえる子育て支援家庭の理解 15 まとめ 			
必須テキスト	『子育て支援』公益財団法人児童育成協会監修、西村重稀他編集、中央法規			
参考文献	授業中に適宜紹介、配布			
成績評価の方法と基準	出席点(20%)＋課題提出(80%)＝合計(100%)			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員の授業」臨床心理学専門。臨床心理士、公認心理師。神奈川県立の児童相談所、児童自立支援施設、日赤医療センター、東北文教大学(教授)などに勤務。『心理学のエッセンス』(日本評論社)、『ハッピー育児セラピー』(学習研究社)、『パパにもわかる子育ての本』(実業之日本社)、他出版。			

2022年度 講義要綱

科 目	保育実践演習	必修 2単位 演習	講 師	なかむらしんいちろう
授業概要	<p>本科目は、自身が興味のあるテーマについて調査、分析、考察、発表を行う。保育者は、子どもとその家庭に関する専門家として、保育士資格取得後も常に自己研鑽に努める姿勢が求められる。本科目は、それを見据え、保育に関する様々な物事に目を向け、幅広い視野を持って主体的に関わる姿勢を養うことを目的とする。</p>			
授業目標	<p>1. 指定保育士養成施設における教育課程の全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。 2. 保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を</p>			
到達目標	<p>①興味のあるテーマについて調査、分析、考察、発表を通じ、保育に関する物事に主体的、意欲的に関わることができる。 ②他者に伝える力を身に付けると同時に、他者の意見を取り入れながら問題解決する方法を身に付けることができる。</p>			
授業方法	<p>これまでの自らの学習を各自が振り返り、グループ討論や個別指導をまじえ、自身が興味のあるテーマについて調査をし、まとめ、発表をする演習中心の授業である。★zoom</p>			
授業計画	<p>1 オリエンテーション ～保育実践演習の進め方～ 2 テーマの設定① ～関心を明確にする～ 3 テーマの設定② ～テーマを決める・関心の深め方～ 4 研究のスタイル ～調査・分析・考察の方法～ 5 ★中間発表に向けての個別指導及びレジュメの作成① 6 ★中間発表に向けての個別指導及びレジュメの作成② 7 中間報告及びディスカッション① 8 中間報告及びディスカッション② 9 中間報告を踏まえ、最終発表に向けた課題の点検、個別指導、レジュメ作成及び発表準備① 10 ★発表に向けての課題の点検、個別指導、レジュメ作成及び発表準備② 11 発表① 12 ★発表② 13 発表③ 14 発表④ 15 レジュメの取りまとめ、総評</p>			
必須テキスト	<p>特に指定なし 適宜資料を配布する</p>			
参考文献	<p>特に指定なし 適宜紹介する</p>			
成績評価の方法と基準	<p>レポート等提出物(30%) + 発表(30%) + 出席状況(40%) = 合計(100%) 提出物は期限を守ること 発表への参加は必須事項である</p>			
担当教員の専門分野等	<p>専門分野:造形</p>			

2022年度 講義要綱

科 目	子どもと遊び	選択必修 2単位 講義	講 師	岡田 春佳
授業概要	現場ですぐに活かせるように、毎回保育の実践事例や保育実技を織り込みながら保育について学びを深めます。一人で考えるのではなく、授業内ではディスカッションの場を積極的に設けます。授業を通して保育の専門性の向上と保育者にとって必要なコミュニケーションスキルを身に着けます。菊地学園理事長の菊地政隆ことまあせんせいの特別講義も受けることができます。			
授業目標	本授業では保育について専門的な視点を養っていくとともに保育を展開していくための保育者としての資質と指導法を身につけることを目標とします。			
到達目標				
授業方法	保育事例の検討ではグループディスカッションを中心に行います。保育実技(手遊び、絵本紹介)では実際に身体を動かし実技を身に着けます。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 自己紹介・授業の進め方について・保育とは 2 「明日の保育に活かせる事例検討①」・手遊び・絵本読み聞かせ 3 「明日の保育に活かせる事例検討②」・手遊び・絵本読み聞かせ 4 まあせんせいの特別講義① 5 「連絡帳・日誌の書き方」・手遊び・絵本読み聞かせ 6 「明日の保育に活かせる事例検討③」・手遊び・絵本読み聞かせ 7 「主体性を育む保育について」・手遊び・絵本読み聞かせ 8 「明日の保育に活かせる事例検討④」・手遊び・絵本読み聞かせ 9 まあせんせいの特別講義② 10 「子どもの心を探る保育について」・手遊び・絵本読み聞かせ 11 「遊びたくなる保育室の作り方」・手遊び・絵本読み聞かせ 12 「明日の保育に活かせる事例検討⑤」・手遊び・絵本読み聞かせ 13 「ゲストスピーカーによる現場の話」・手遊び・絵本読み聞かせ 14 「明日の保育に活かせる事例検討⑥」・手遊び・絵本読み聞かせ 15 まとめ 「保育とは」 			
必須テキスト	特にありません			
参考文献	授業ごとにご紹介します。			
成績評価の方法と基準	授業で学んだことのレポート(30%)出席率・授業への取り組み(70%) 特に講義の出席回数を最大限に評価いたします。			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。公立保育園での12年間の保育士経験があり、より現場に近い内容で授業を構成しています。現在は学校法人菊地学園(理事長:菊地政隆)に在職中。主任・園長の経験もありますので、授業以外でも、キャリアアップや就職相談も可能です。			

2022年度 講義要綱

科 目	子どもの食と栄養実習	選択必修 1単位 講義	講 師	深川 卯子
授業概要	離乳食・幼児食を実際に作ることによって、固さ、大きさ、バランスの良い献立などを理解する 食育の実際について事例(計画作成)を行いながら学ぶ			
授業目標	子どもに対して年齢に応じた食べ物を実際に見たり触れたりすることとおして理解する 子どもや保護者に対して実際に食育が行えるようになる			
到達目標	調乳ができる 子どもに応じた適切な離乳食や幼児食が判る			
授業方法	実習を通して離乳食や幼児食をできるようにプリントにそって授業、実習を行う プリントは提出すること(返却します)			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業の説明・進め方／1年時の復習 2 調乳実習／栄養計算の説明(プリント配布) 3 栄養計算(各自)質問タイムあり／離乳食の説明 実習について 4 離乳食作り(初期・中期) 5 離乳食作り(後期・完了期) 6 幼児食の献立／主菜に合わせて副菜を考える(グループで) 7 離乳食の振り返り／幼児食実習の説明など 8 幼児食実習／考えた副菜を作る 9 幼児食を作ったの振り返り／食育の計画(軽食作り) 10 軽食の計画完成(栄養計算も) 11 食育の計画としての軽食作り 12 軽食作りの振り返り／各グループごとに発表する 13 アレルギー対応食の実習／小麦粉⇒米粉／卵。乳製品無の軽食 14 実習を通して学んだこと(振り返りとして)／各自発表も含めて まとめ プリントはこの日までに提出／前回までに提出の分はこの日に返却予定 15 まとめ／主に実習で学んだこと 			
必須テキスト	プリント配布による			
参考文献	1年時の教科書 食品成分表			
成績評価の方法と基準	出席および実習参加60% 実習についての配布プリントの提出40%			
担当教員の専門分野等				

2022年度 講義要綱

科 目	合唱と合奏	選択必修 2単位 講義	講 師	木下 裕子、上田 亜津子、 大須賀 かおり、鈴木 真智子
授業概要	1年次に学んだ子どもの歌を中心としたレパートリーについてどのように現場で子どもたちと楽しんでいくか、自ら考えながら、より良い指導法のテクニックを培っていく。コードネームの基礎をマスターする。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・個人レッスンでは保育実習Ⅱに向けて生活の歌や現場ですぐ楽しめる曲を2～3曲仕上げる。 ・季節や生活・行事等、様々なねらいに応じた歌遊びの現場での楽しみ方を身に着ける。 			
授業方法	1年次と同じく、クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、①ピアノ等の個人レッスンと②合唱等のグループレッスンとを行う。オンラインの個人レッスンでは画面に手元を映すよう工夫すること。			
授業計画	<p>1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(①②に分かれて45分で入れ替わる)</p> <p>2 ①ピアノ等による個人レッスン／②合唱等のグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。</p> <p>3 ①ピアノ等による個人レッスン／②1年次にマスターした子どもの歌のレパートリーの確認。</p> <p>4 ①ピアノ等による個人レッスン／②コード伴奏等の基礎知識(五線紙は配布します。)</p> <p>5 ①ピアノ等による個人レッスン／②現場で役立つ声の出し方(呼吸法と発声法)</p> <p>6 ①ピアノ等による個人レッスン／②童謡・唱歌等の子どもの歌教材研究</p> <p>7 ①ピアノ等による個人レッスン／③3～4名のグループによる指導法研究と発表</p> <p>8 ①ピアノ等による個人レッスン／②指揮法基礎</p> <p>9 ①ピアノ等による個人レッスン／②2声・3声のハーモニー(共働作業を楽しむ)</p> <p>10 ①ピアノ等による個人レッスン／②リトミックを含む歌遊びの指導法研究</p> <p>11 ①ピアノ等による個人レッスン／②リズム楽器を楽しむ</p> <p>12 ①ピアノ等による個人レッスン／②弾き歌いの指導法研究</p> <p>13 ①ピアノ等による個人レッスン／②個人レッスンによるアドバイス</p> <p>14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導(①②共)</p> <p>15 実技試験(発表会)と各自の振り返り</p>			
必須テキスト	<p>『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版</p> <p>『ポケットいっぱいの歌』教育芸術社</p> <p>※対面時は”有線イヤホンorヘッドフォン”をお持ちください</p>			
参考文献	日本児童教育専門学校編「はじめての弾き歌い」			
成績評価の方法と基準	出席状況・受講態度(50%)＋実技試験(50%)＝合計100% 実技試験課題については1か月前には担当講師と個別に検討を始め、ピアノ曲、弾き歌い各1曲(または弾き歌い2曲)を準備すること。			
担当教員の専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。			

2022年度 講義要綱

科目	保育教材研究	選択必修 2単位 講義	講師	なかむらしんいちろう
授業概要	<p>【造形】(該当科目9コマ)の授業計画は開講後決定。以下の項目から行う予定。 ・お面づくり・衣装づくり:ポリ袋・イラスト練習:季節の絵・絵遊び:絵しりとり、絵ビンゴ・ゲーム遊び:手作り双六 ・屋外活動:自然物で絵画制作・障子紙の染め:桜制作・フィンガーペイント・布を染める・レッジョの座学①:段ボールスタンプ・レッジョの座学②:段ボールと自然物でフォトフレーム・地平線絵本・アルミホイル:粘土のように自由な形を作る・ボンドでオーナメント:ボンドに絵の具を混ぜ、形を整える・絵画の援助:講義:レポート提出</p>			
授業目標	<p>【造形】これまで獲得した基礎力を活かし、多種多様な道具材料を工夫して課題制作を行う。「失敗を恐れず遊びのなかで創造力を養う子どもの造形活動」を体験する。現場活動を想定し、造形への理解を深め、指導力や表現力の幅を広げる。</p>			
到達目標	<p>【認定絵本士養成講座科目】を学び、絵本への理解を深める。 【造形】子どもの創作活動を追体験し、想像力を広げる。将来の現場実践のため、教材について視野を広げる。</p>			
授業方法	<p>【造形】1.実技 2.座学 (基本毎回課題提出) 対面授業(4回)+オンライン授業(5回) 【認定絵本士養成講座科目】対面授業(6回)、課題提出もあり。</p>			
授業計画	<p>1 【認定絵本士養成講座科目】「絵本総論」担当:なかむら 課題 対面(全クラス) 2 【認定絵本士養成講座科目】「絵本各論④」担当:手塚賢二 課題 対面(全クラス) 3 【認定絵本士養成講座科目】「絵本各論①」担当:なかむら 課題 対面(全クラス) 4 【造形】①前提講義:講師挨拶、授業受講のルール等 担当:笠原・なかむら 対面(acTS) 5 【造形】② 担当:笠原・なかむら 対面(b) 6 【造形】③ 担当:笠原・なかむら オンライン(全クラス) 7 【認定絵本士養成講座科目】「絵本各論②」担当:なかむら 課題【対面(全クラス) 8 【認定絵本士養成講座科目】「絵本が生まれる現場①」担当:なかむら 課題 対面(全クラス) 9 【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う④」担当:関本練 対面(全クラス) 10 【造形】④ 担当:笠原・なかむら オンライン(全クラス) 11 【造形】⑤ 担当:笠原・なかむら 対面(abTS) 12 【造形】⑥ 担当:笠原・なかむら 対面(c) 13 【造形】⑦ 担当:笠原・なかむら 対面(全クラス) 14 【造形】⑧ 担当:笠原・なかむら 対面(全クラス) 15 【造形】⑨ 担当:笠原・なかむら 対面(全クラス)</p>			
必須テキスト	<p>【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト</p>			
参考文献	<p>適宜紹介</p>			
成績評価の方法と基準	<p>受講態度・積極性50%+目標到達度・技術習得度・課題提出数及び内容・技術習得度50%=計100% 参加・実践形式の授業の為、授業中の意欲的な取り組み、課題作成のプロセス、創意工夫、プレゼンテーション能力、作品説明能力、期日までの提出を評価</p>			
担当教員の専門分野等	<p>【造形】笠原:「実務経験のある教員による授業」に該当。長年にわたって保育所で勤務。 【認定絵本士養成講座担当講師】 ○関本:書店における絵本の売り場づくり、および、絵本の出版流通に精通した者 ○なかむら:絵本をめぐる活動に精通した者、絵本の歴史や絵本賞に関する専門的知識を有する者、絵本の視覚表現・言語表現に関する専門的知識を有する者、絵本作家、童話さっかとして豊富な経験を持つ者 ○手塚:情報メディアとしての絵本の特性および我が国著作権制度と絵本の関わり、電子書籍と脳科学に関する専門的知識を</p>			

2022年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・身体表現遊びⅡ	選択必修 1単位 講義	講 師	松森 照幸
授業概要	保育士として大切なコミュニケーション力、一つのものに対し力を合わせ作り上げていく必要性を学習する。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身体表現遊びⅠで学んだ内容を基本としてさらに実践的スキルを身につけることができる。 ・基本的な運動のしくみ、意味を理解し実践につながる方法を学び、理解できる。 			
授業方法	様々な集団遊びを通して、人間関係を築ける行事内容を学習し、自らも企画、準備をする体験をし、チームワークの大切さに気付く。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ・オリエンテーション・表現遊びとは・運動会とは 2 かけっこ①歩く、走るとは②リレー(団体競技の指導上の留意点) 3 ・幼児期運動指針とは 4 ・運動会を観る(DVD)・ボール転がし競争(ボールとかご)、風船ボールづくり、ドッチボール、フープ遊び 5 ・スズランテープ、的あて(スズラン、折り紙、ティッシュ)・はさんで運んで(スイカボール)、風船はさみ競争、リズム・ダンス遊び 6 パラバルーン、組体操 7 指導上の留意点 8 ・ごっこ遊び・人間ジャンケンサッカー(じゃんけん遊び)、連続キャッチボール、ドラゴンボール、世界一速いリレー 巧技台を使った運動遊び 9 運動会に向けての企画づくり① 10 運動会に向けての企画づくり② 11 運動会に向けての企画づくり③ 12 運動会に向けての企画づくり④ 13 運動会に向けての企画づくり⑤ 14 企画についてのプレゼンテーション 15 まとめ※授業の内容は進み具合によって変更する場合があります。 			
必須テキスト	特になし			
参考文献	ハッピー運動会楽しさいっぱい種目集			
成績評価の方法と基準	受講態度(40%)、提出物(30%)、発表内容(30%) 出席状況(一回欠席に対し5点マイナス)による総合評価			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。長年保育現場に勤務し、保育現場に携わる。現在は幼稚園、保育園で幼児体育講師として勤務。			

2022年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・造形遊びⅡ	選択必修 1単位 講義	講 師	廣田 篤憲
授業概要	現場で役に立つ実践的な課題を制作し、造形の技法を身につけその能力を高め指導者としての能力を養い身につけ、絵画造形の技法をより高めるように習得する。			
授業目標	1. 幼児の造形教育の背景について理解し、育みたい「資質・能力」を知り、幼児期の終わりまでに育てたい姿を目標として、その基礎的な造形能力・表現力および指導方法を身につける。 2. 造形における教材・素材等の活用及び作成と、造形教育の環境の準備構成、指導現場で展開できる技術と表現力を実践的に習得する。			
到達目標	1. 子どもの造形活動について理解し、造形能力の発達段階に応じた造形指導ができるようになる。 2. 保育現場を考慮し、子どもの造形能力に応じた、造形環境を準備し造形遊びの内容を構成することができる			
授業方法	準備された画材・素材を使用して造形作品を制作しつつ、現場での指導方法を考え習得する。 多種多様な表現方法を学び身につける。			
授業計画	1 幼児の造形教育のねらいと方法(教材、素材、生活環境・自然環境の活用などについて) 2 紙コップを使ってタコを作る(紙コップを色画用紙で巻く方法) 3 画用紙を使って:Z折りにした画用紙を展開することによって変化のある楽しい絵の制作 4 ペットボトルを使って輪投げのピンを作り、新聞紙で輪投げの輪を制作する。 5 カップ麺の容器を使ってカメを作る 6 紙コップで作った人形で美容師ごっこ 7 ペットボトルを使って輪投げのピンを作り、新聞紙で輪投げの輪を制作する 8 にじみ絵の技法を使ってシャボン玉を表現する 9 色画用紙を使って、動くペーパークラフトの制作、その1。 10 色画用紙を使って、動くペーパークラフトの制作、その2。 11 発想を形にする:自由なイメージでの制作 12 マーブリングで紙に模様をつけ魚釣り遊びのオモチャを制作する:その1。 13 マーブリングで紙に模様をつけ魚釣り遊びのオモチャを制作する:その2。 14 色画用紙を使ってアニマルフェイスのペーパークラフト 15 音の出るオモチャの制作			
必須テキスト	幼児造形の基礎 萌文書林 著者:樋口一成 編著			
参考文献				
成績評価の方法と基準	作品、出席状況による総合評価(作品は全作品提出が単位取得の最低条件です) 講義を受ける姿勢および意欲も評価します			
担当教員の専門分野等	多摩美術大学グラフィックデザイン科卒業。中・高等学校美術科教諭を経て印刷物のためのイラストレーション、機械式腕時計内部の鉛筆細密デッサン、立体作品、アーマチュアの制作、アートディレクションなど。			

2022年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・言葉遊びⅡ	選択必修 1単位 講義	講 師	川北 亮司、本多 ちかこ、 横山 雅代
授業概要	[川北]絵本を作る楽しさを学ぶ。 [本多]紙芝居の特性を知り、演じ方と制作を学ぶ。 [横山]●●			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標	[川北] オリジナルの小さな絵本を制作する。 [横山] ●●			
授業方法	[横山] ※授業計画の順番はクラスにより異なります。 別紙オムニバス科目授業日程をご確認ください。			
授業計画	1 [川北]1 絵本制作(1)手づくり絵本とは。 2 [川北]2 絵本制作(2)絵本の構造と楽しいアイデア。 3 [川北]3 絵本制作(3)下書きの書き方。 4 [川北]4 絵本制作(4)製本の方法。 5 [川北]5 絵本制作(5)手づくり絵本の発表と鑑賞。 6 [本多]1 ささまざまな紙芝居を観る 7 [本多]2 紙芝居の歴史と特性 8 [本多]3 舞台を使って演じる 9 [本多]4 紙芝居の制作 10 [本多]5 手づくり紙芝居の発表 11 [横山]1 12 [横山]2 13 [横山]3 14 [横山]4 15 [横山]5			
必須テキスト				
参考文献				
成績評価の方法と基準	受講態度、出席状況、提出物による総合評価			
担当教員の専門分野等	川北: 本多:紙芝居の創作と実演 横山:			

2022年度 講義要綱

科 目	保育実習Ⅱ	選択必修 2単位 外部実習	講 師	実習指導授業担当
授業概要	保育所において、90時間以上の実習を行い、現場職員の指導を受ける。			
授業目標	1. 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることで、保育の理解を深める。 3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。 4. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。			
到達目標	保育所の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について、実践的に理解し、説明できる。 保育のPDCAサイクルを経験し、保育全般に対する理解を深め、自己の課題を明確化できる。			
授業方法				
授業計画	1 ①子ども及び保育者の関わりに対する視点を明確に持ち、考察する。 ②教科学習、保育実習Ⅰの経験に基づき、保育、子育て支援について理解を深める。 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15			
必須テキスト				
参考文献				
成績評価の方法と基準	実習態度・対象者の理解・職員としての資質の観点に基づく、現場職員及び実習指導授業担当者教員による総合評価			
担当教員の専門分野等				

2022年度 講義要綱

科 目	保育実習Ⅲ	選択必修 2単位 外部実習	講 師	実習指導授業担当
授業概要	各現場の指導プログラム、計画に従う			
授業目標	1. 既習の教科や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解する。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する			
到達目標	1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能、利用者ニーズと支援の実際を理解する 2. 個人の支援計画を理解し、多様な専門職との協働、業務内容、職業倫理を理解する 3. 現場における学びを記録、考察し、自己課題を明確化できる			
授業方法	各施設職員の指導の下、現場で実務経験をする			
授業計画	1 ①現場職員による支援実践を観察し、活動に参加することを通して、支援全般について知る ②子ども・利用者の観察、関わりを通して、対象者への理解を深める 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15			
必須テキスト				
参考文献				
成績評価の方法と基準	「実習態度」「対象者の理解」「職員としての資質」の観点に基づく、現場職員及び実習指導担当教員による総合評価			
担当教員の専門分野等				

2022年度 講義要綱

科 目	保育実習指導Ⅱ	選択必修 1単位 講義	講 師	松森 照幸
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習Ⅰについて、グループディスカッション・個人面談・実習体験発表を通じて振り返り、評価・反省に基づいて自己課題を理解し必要な学習に取り組む ・保育実習Ⅱで臨む部分実習、責任実習のための準備を行う ・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本への理解を深める。(該当科目1コマ) 			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 責任実習、部分実習のために保育教材の製作および指導案の立案が出来る。 2. 模擬保育の実践発表を行うことが出来る。 <ul style="list-style-type: none"> ・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。 			
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義、演習(グループワーク)および実技・発表 ・保育実習Ⅰの振り返りとともに模擬保育の実践、責任実習指導案を完成させるための自己学習 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業オリエンテーション(授業概要・目標・評価方法・持ち物等の説明) 2 保育実習Ⅰの振り返り 3 「主活動の指導計画」立案練習 4 「1日の指導計画」立案練習 5 保育実習Ⅱに向けて 健康管理・個人票・実習課題 6 模擬保育に向けて①(作って遊ぶ活動の選択/ねらい) 7 模擬保育に向けて②(教材準備) 8 【認定絵本士養成講座科目】「おはなし会の手法①」担当:近藤千春 9 模擬保育に向けて③(導入の意味) 模擬保育に向けて④(材料の配布・説明・遊びの展開) 10 模擬保育に向けて④(材料の配布・説明・遊びの展開) 11 模擬保育実践1 / オリエンテーションについて 12 模擬保育実践2 / 保育現場職員とのワークショップ 13 模擬保育実践3 14 試験「責任実習指導計画」 15 保育実習Ⅱに向けての心構え 			
必須テキスト	保育実習指導1aで使用した「フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画」 【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト			
参考文献	授業中に適宜紹介			
成績評価の方法と基準	授業への取り組み(25%)+発表・模擬保育(40%)+テスト(15%)+提出物(20%)=合計(100%)			
担当教員の専門分野等	幼稚園教諭または保育士としての実務経験があり、幼稚園教諭免許状及び保育士資格をもつ教員が、その経験に基づいた指導を行う 【認定絵本士養成講座担当講師】 ○近藤千春:絵本に関する「おはなし会」の実践経験を10年以上もつ者。			

2022年度 講義要綱

科 目	保育実習指導Ⅲ	選択必修 1単位 講義	講 師	東郷 結香
授業概要	1年次で経験した保育所実習、施設実習の振り返りと反省をし、次回の実習に向け課題を明確にして準備を整える。			
授業目標	1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。			
到達目標	①施設における保育者の役割、さらには保育者の専門性について理解する ②対象の状態を適切に理解し、対応、関わり、支援計画の立案ができるよう学ぶ ③自らの課題を明確にする			
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・個々人の実習報告をもとにディスカッション、指導を行う ・各施設の現場の先生をお招きした講義や、現場見学等、体験的に学ぶ 			
授業計画	1 オリエンテーション、授業の進め方 2 保育所実習・施設実習の振り返り① 3 保育所実習・施設実習の振り返り② 4 保育所実習・施設実習の振り返り③ 5 現場連携① 6 現場連携② 7 現場連携③ 8 現場連携④ 9 現場連携⑤ 10 支援計画、指導計画の立案① 11 支援計画、指導計画の立案② 12 実習目標指導① 13 実習目標指導② 14 実習に伴う書類の作成、事務手続きの確認 15 まとめ			
必須テキスト				
参考文献	授業内で適宜示す			
成績評価の方法と基準	出席点(30%) + 平常点(30%) + 発表等(40%) = 合計(100%)			
担当教員の専門分野等	専門は心理学です。各現場の人々や、そこで生じる事象について『解釈する』、フィールドワークが主な専門。児童養護施設や、障害児療育、心理臨床の場など様々な現場に入ってきました。			